

A-1 学校研究

1 研究主題

自分の考えを持ち、生き生きと表現する子をめざして
～考える力を中核とした読む力・書く力の育成を通して～

2 研究のねらい

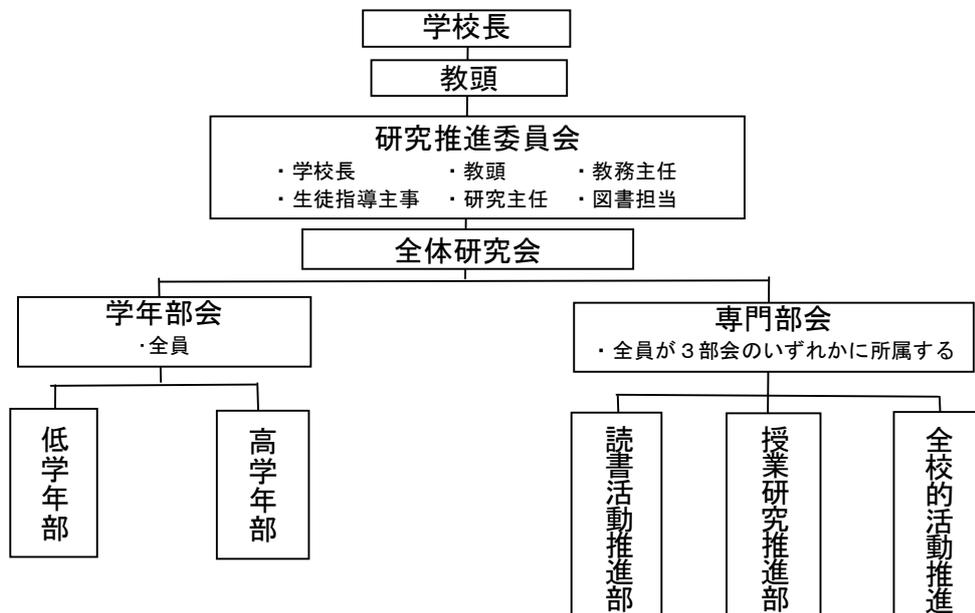
平成16年に公表されたPISA調査の結果で、わが国児童の読解力の低下が明らかになった。PISA型の読解力は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されており、実用的かつ社会参加の基盤となる力としてとらえられている。これは、現行学習指導要領がねらいとしている「生きる力」「確かな学力」と同じ方向性にある。

本校の児童は、読書に親しみ、漢字や計算の基礎的な力はあるが、基礎学力調査の結果から、細かい点に注意して文章を正しく読む能力や、要旨をまとめたり、考えを書いたりする能力が不足していることがわかった。このことから、「読む力」にとどまらず、「書く力」や特に「考える力」と関連した部分に課題があると考えられる。これは、PISA型読解力の求める方向とも一致している。

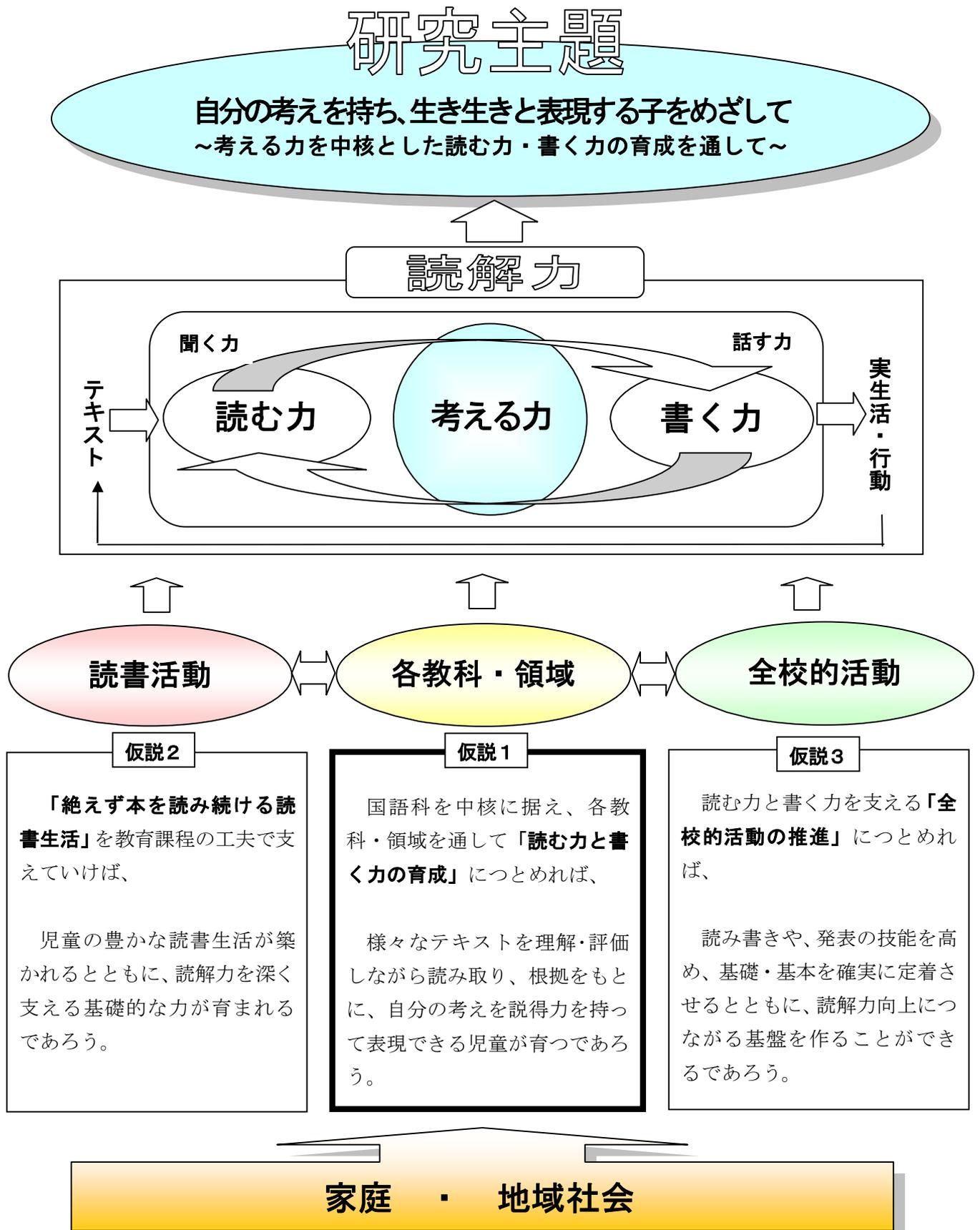
そこで、本校の研究主題である「自分の考えを持ち、生き生きと表現する子」を実現するために、読解力に焦点をあて、「考える力を中核とした読む力・書く力の育成を通して」を副題にすえて研究を進めることとした。自分の考えを持ち論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じた的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることが、しっかりと自分の考えを持ち、生き生きと表現することにつながっていくと考える。

文章や資料を単に読むだけでなく、考えながら読んだり、読んで考えたことを書いたりすることを大切に、学校の教育活動全体で、各教科等の指導を通して、考える力を中核とした読む力・書く力を育成し、「自分の考えを持ち、生き生きと表現する子」を育てていきたい。

3 研究組織



4 研究構想図



5 研究の内容

読解力向上に向けて、「授業研究」を中心に据え、それを支える役目として「読書活動」「全校的活動」を位置づける。さらに、文部科学省の読解力向上プログラムに示された「指導の改善の方向」の共通理解を図り、各教科・領域にわたって「7つの指導のねらい」に沿った授業研究と日常の授業の改善に取り組む。

読解力向上のための7つの指導のねらい

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

- (ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成・・・①
- (イ) 評価しながら読む能力の育成・・・②
- (ウ) 課題に即応した読む能力の育成・・・③

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

- (ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成・・・④
- (イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成・・・⑤

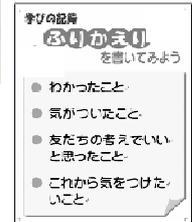
ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること

- (ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成・・・⑥
- (イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成・・・⑦



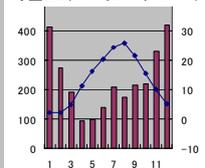
6年生による読み聞かせ

書く力の育成



ふりかえりタイム

幅広いテキスト



グラフや表もテキスト

- ・読解力に関わる年間指導計画の作成
- ・授業改善の指導例作成と実践
- ・授業研究と日常の授業の改善
- ・ふりかえりタイムの実践
- ・読解力アンケートの実施
- ・話し方、聞き方の指導

授業研究

読解力向上

読書活動

- ・授業の中での読書活動
- ・読み聞かせ
- ・ブックボックス
- ・図書委員会の活動
- ・朝読書（毎日実施）
- ・家族読書
- ・読書記録ファイル

全校的活動

- ・読解力向上リテラシータイム
（毎週金曜日の帯時間）
- ・学年発表・・・音読、朗読、詩の暗唱等
（各学年 年2回）
- ・全校漢字計算テスト
（各学期毎）
- ・生活習慣の確立・・・朝食、起床、就寝
- ・家庭学習の充実（強化週間年3回）

家庭・地域社会